

すてきなあなたへ

編集 佐倉市宮ノ台女性井戸端会議

発行 佐倉市宮ノ台4-26-8 tel&fax043-461-7004

九州の旅

—磨崖仏・イルカウォッチング・トライアスロン—

4月中旬、夫と4回目の九州旅行に出かけた。今回は、別府、国東半島、久住高原、阿蘇山、島原、天草、熊本を4泊5日かけてレンタカーで廻った。印象的だったのは神仏習合のふるさと国東半島の寺と磨崖仏、天草通詞島でのイルカウォッチングだ。国東半島では、竹林が美しい、どこか飛鳥、大和にも似た風景になつかしさを覚えた。ここは、古くは宇佐神宮の神領地であり、奈良時代末から鎌倉時代にかけて神仏が集合した形で仏教文化が花開いたところだ。六郷満山という言葉が示すように、もとは宇佐八幡神宮の神官子弟たちの修行の場であったが、そこから修験道が生まれたという。六つの郷のそれぞれ険しい山の奥には盛時65もの寺院があったそうだ。国東半島の石の文化と神仏習合という日本独特の思想を創出したのは半島からの渡来人、新羅人たちであったという。国東町歴史体験学習館で見た郷土の偉人、「吉武東里」は国会議事堂を設計した人だが、彼は新羅人の末裔に違いないと思った。

旅の4日目、島原半島から天草下島までフェリーで渡り、予約していた通詞島イルカウォッチングの漁船に乗り込んだ。お客は夫と2人だけ、有明海の入り口に当たる早崎の瀬戸にさしかかると水面がさざ波立ち、船は大揺れ。それでも漁師さんはスピードを落とさずイルカの群れを目指す。夫と振り落とされないように船首につかまっているのに必死であった。このあたりには300頭ものイルカが住み着いていて、漁場を漁師とイルカで分け合っているとのこと。地元の町おこしとして13年前からウォッチングを始めたそうだ。島原の口之津に近いところでイルカの群れに出会えた。やはり、このような近さで見ると野生のイルカには感動した。ピンクのさくら鯛を口にくわえてジャンプしてくれたイルカ君にも出会うことができた。この日は、本渡市の島原湾に面したホテルに泊まる。島原湾の向うに雲仙・普賢岳が見渡せる絶景のロケーションであった。あまりすばらしい眺めにホテルの周りを歩くと小さな入り江に「日本トライアスロン発祥の地」という記念モニュメントがあった。

最終日、ロザリオラインを走り天草五橋を通過して熊本へ。次々に変化する島と山の形、波のない穏やかな海の美しさ。このような美しい自然の中でトライアスロンができるのならと思わずトライしてみたくなくなってしまった。道の駅では、清見みかんとたけのこが信じられない安さで売られていた。

(H)

届いた！集まった！読者の声！

電話やファックス、メールなどで発行所に届いた声はさまざまです
率直な感想とご意見をお待ちしています

- ①開発で北部調整池はすっかり様子が変わってしまいました。よく見かけた野鳥や詩吟を練習していた方の行方が、気になっています。(宮ノ台 女性)
- ②井野東開発に関して、組合への助成金について初めて知ったが、あなた方としては今後どんな活動をしていくつもりか、具体化して欲しい。(白井 男性)
- ③社協の記事はよく調べてあり、拡大コピーをして、多くの仲間に配ったら反響が大きかった。行政は負担になる部分だけ「民」へ委ねているとしか思えず、各市民団体は、声を挙げるべきだろう。ミニコミ誌でも具体策を考えて欲しい。(中志津 男性)
- ④10キロ完走のHさん、おめでとう。半年の精進があったとはいえ、いきなり10キロとはスゴイ。私にも、職場近くの皇居一周5キロを走っていた時代があったのに、いまでは体重計と血圧計とにらめっこです！(宮ノ台 女性)
- ⑤社協には個人的に腹立たしいことがあって、前から会費は払っていません。(ユーカリが丘 男性)
- ⑥社協や「移送サービス」の実態がよく分かった。社協はサービスを抑えて、集金組織になっているのではないか。台湾紀行の歴史観には疑問が残った。(宮ノ台 男性)
- ⑦社協の会費を班長さんが集金しに来たりすると、ご近所の方から何を言われるか知れないと思ってしまう。日本人の弱いところかもしれない。(宮ノ台 女性)
- ⑧敬老の集いの反省会で、参加者はそんなに増やすものではないと発言した福祉委員に驚いたが、「移送サービス」の発想もまったく同じではないか。(宮ノ台 女性)
- ⑨組合に5000万以上の助成金を出すのだったら花火大会を続けてほしかった。今年のチューリップまつりでは駐車が500円の有料になったのにも驚いた。(宮ノ台 女性)
- ⑩井野東開発問題では、ただ自分のマンションの向かいにマンションが建つのかなという関心しかなかったけれど、いろいろな問題があることがわかってきた。(不明)
- ⑪井野東の組合事業に地元企業がこんなにも絡んでいることを知らなかった。(ユーカリが丘、男性)
- ⑫映画を2本紹介というより、地域のニュースや情報を増やした方がいい。(井野 男性)
- ⑬雑誌『スクリーン』を古本屋で買っていた映画世代の僕らには映画招待席は楽しい。ライターは地元の人ですか？(上座 男性)
- ⑭「年を取ったらどこに住みたい？」は、昨年介護の末、母を見送ったので、身につまされました。「白バラ祈り」に駆けつけ、「倚りかからず」の詩集も入手しました。(長岡京市 女性)
- ⑮映画招待席を見て映画館へ行くこともあり、行けなくともビデオを選ぶときに参考にしているので毎号楽しみです。(宮ノ台 女性)
- ⑯「白バラの祈り」「グッドラック・グッドナイト」もぜひ見たいと思っていた映画だった。いま自分が参加している反戦活動にもかかわるだろう。(大蛇 男性)

菅沼正子の映画招待席 19

紙屋悦子の青春

—戦争への怒りが静かに爆発する—

庶民の日常と戦争をライフワークとして描き続けた黒木和雄監督の遺作。銃後の生活の中に潜んでいる軍国主義に対しての反骨精神が全編にあふれた反ファシズム映画である。

戦後60年を経た現在の病院の屋上で、老夫婦の回想から始まる。

昭和20年3月30日、特攻基地のある鹿児島県出水市。両親を東京大空襲で亡くしたばかりの紙屋悦子(原田知世)は、兄夫婦と暮らしている。義姉は悦子の親友だから3人の生活はつつましくもなごやかなものだ。悦子がひそかにあこがれを抱いている人は、兄の後輩の明石少尉(松岡俊介)。明石もその思いは同じだが、兄は明石のたつての願いとかで、明石の親友・永与(永瀬正敏)との見合いを勧める。というのは、まもなく明石は特攻出撃しなければならないため、整備係で出撃の可能性の低い永与に、愛する悦子を託したいのだ。

見合いから数日後。玄関先に桜が満開の悦子の家を永与が訪れ、明石から預かった封筒を差し出す。出撃直前の操縦席から永与を呼び寄せ「貴様にしか頼めん、貴様だから頼む」と手渡し「思い残すことはない」と言って飛び立って行ったという。ここがこの映画の最高の見どころで枝葉を削ぎ取った簡潔の中にも3人3様の悲しい青春が切々と伝わってくる秀逸な映像。いつしか涙が頬を伝わってくる。特攻で命を散らした明石、親友を戦死させてしまった永与の無念、手を握ることもなく愛を引き裂かれた悦子。永与は明石の分まで悦子を大切にしなければ、と思う。

そう、冒頭の夫婦は永与と悦子である。監督はパンフレットに「あの時代を生きた若者たちに捧げるレクイエムです」と書いているように、あの時代の銃後の人々の生活と心情がリアルに描かれていて、深い悲しみを誘う。しかしあの時代を知らない人たちに、この映画の”空気“を感じることができるだろうか。飛行機一機も飛ばない、憲兵の姿さえない、のどかな田園風景の中で暮らしているように見えるが、あの時代とはどういう時代だったのか。しめつけられるような体制の下で、人々は自己表現することもできず、恐怖におびえ、夢も希望も持てない。明日も見えない日々の中で、曖昧模糊とした生き方しかできなかったのだ。

60年後の、あの穏やかな生活にたどりつくまでは幾多の辛酸があっただろう。滝から流れ落ちる水は滝壺で激しく逆巻き、やがて川を流れて大海に注がれるような、そんな60年の生活が想像できるのだ。

「だから決して戦争をおこしてはいけない」という監督の怒りの声が聞こえてくるようだ。
(8月12日より岩波ホールにて、ロードショー)

本誌は、宮ノ台1～5丁目には全戸配布しています。志津コミセン、志津公民館、西志津ふれあいセンター、ユーカリが丘郵便局には置かせていただいています。宮ノ台にお住まいでないお友達などにお渡しいただける方は、ご入用の部数をお知らせください。



オストメイトのマーク

オストメイトとは

ボランティア仲間と京成津田沼にある(社)日本オストミー協会千葉県支部を訪ねた。支部長さんの話を聞き、是非、沢山の人の知って欲しいと思った。

オストメイトとは大腸がんや膀胱がん等のため、肛門や膀胱の機能を失い、腹部にストーマ(排泄口)を造設している人で、日本には20万人~30万人いると言われている。原因の1つである大腸がんは年々増え続け、H17年には女性のがん死亡数1位となった。コロストメイト(人工肛門保有者)とウロストメイト(人工膀胱保有者)に分けられ、ともにパウチという蓄便(尿)袋をストーマに装着して、常時の排泄に備える。大腸の切除範囲によっては、洗腸という積極的な排便方法により24時間~48時間、便がストーマから出るのを抑える事ができる。しかし、これは1時間以上かかる大変な作業のため、該当者でも旅行などの特別な場合のみ行う人が多いという。常時流れ出てパウチに溜まる排泄物を適切に処理できるオストメイト用トイレ(洗浄台)が社会参加には欠かせない。

外見からは判別できない障害のためオストメイトの社会的認知はあまり高くない。彼らには、命の危機を手術で乗り越えた後、新たな終わりの無い試練が待っている。パウチは肌に直接装着するため、汗をかくたり、激しい動きをすると外れる事がある。殆どのオストメイトは外出時に失敗の経験があり、周囲の反応に大変傷つく。内部障害のため、理解が得難いのである。身障者トイレから出てきて、待っていた車椅子の人に「あなたの使うトイレではない!」と怒鳴られたオストメイトの話を読んだ事がある。

バリアフリーの社会を目指し「交通バリアフリー法」「ハートビル法」ができ、身障者トイレが整備されてきている。船橋駅そばのビルには、オストメイトが汚れた衣服を取り替える時に身体も洗えるよう、シャワー設備のある多機能トイレがあるそうだ。しかし、中にはがっかりするようなオストメイト対応とうたったトイレもある。①湯が出る、シャワー切替型の水栓 ②高さが調節できる洗浄台(カウンター付)③石鹸とトイレトペーパー ④腹部を映す鏡 ⑤汚物入れ⑥荷物台 これだけは必ず備えて欲しい。オストメイトにとり、オストメイトマークのある身障者トイレは単なるトイレではなく避難場所であり、再び社会へ出て行くための身支度の場でもある。ストーマを保有している不備さは解消する事ができないが、せめて、駅・公共施設・大型商業施設にはオストメイト対応の多機能トイレが整備される事を願う。また、消耗品でありながら、義足とおなじ補装具とされ、公的医療保険対象外となっているパウチの経済的負担も大きい。残念ながら、内部障がい者の声は届き難いのだ。(K)

編集後記 企業の不具合、不祥事ってなに? 役所・政治家の汚職・談合をはじめとした不祥事はもはや日常茶飯であり、大学や病院にも噴出する。オンブズマンとかコンプライアンスとか喧伝されて久しく、規制緩和や民営化が効率やサービス向上をもたらすというのはほんとうだろうか。自治体にあっては、住民参加、市民協働、パブリックコメントとかの言葉が踊る。瑣末的な事柄については市民の意見は取り入れても、基本的には官僚指導、企業優先のスタンスは揺るがない。8月19日10時、佐倉市役所で井野東・井野南組合開発事業についての公聴会が開かれる。たんなるセレモニーで終わらせてはいけない。多くの方々の傍聴を願う。(M)